

抗 GFP 抗体, ラット モノクローナル (1A5)

60-001 100 ug

保存温度: 4°Cで送付、-20°Cで保存。

反応特異性: GFP および GFP 融合タンパク質

免疫原: リコンビナント GFP

用途:

- | | | |
|---------------------------|----------|-----------|
| 1. ウェスタンブロッティング (~1ug/ml) | 2. 免疫沈降 | 3. 免疫蛍光染色 |
| 4. クロマチン免疫沈降 (ChIP) | 5. ELISA | |

アイソタイプ: ラット IgG1 kappa

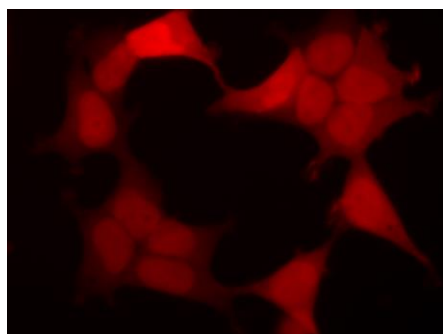
形状: 精製モノクローナル抗体 (IgG) 1mg/ml in PBS, 50% glycerol, 濾過滅菌

背景: **Green fluorescent protein (GFP)** は 238 アミノ酸 (26.9 kDa)から成り、もともとはオワンクラゲ *Aequorea victoria* より分離されたタンパク質で、青色光で励起された場合緑色の蛍光を発する(文献1)。細胞生物学、分子生物学の分野では、**GFP** 遺伝子を他のタンパク質遺伝子と融合させ、融合タンパク質の分布や発現を調べることができるため、**GFP** は有力なツールとなっている(文献2,3)。

この抗体は、無血清培地で培養したハイブリドーマの培地から独自のクマとグラフィーなどを組み合わせたマイルドな条件下で精製された。

データリンク: Swiss-Prot [P42212](#) (*Aequorea victoria*)

1A5 antibody



GFP

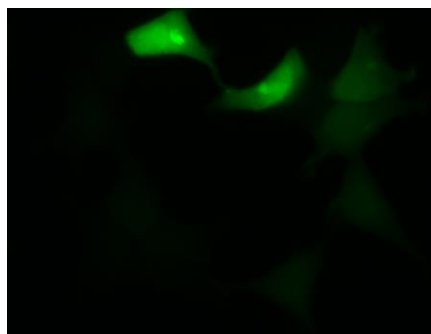


図1 COS1 細胞に発現した GFP (右図) と、同じサンプルを 1A5 抗体で免疫蛍光染色したもの (左図)。

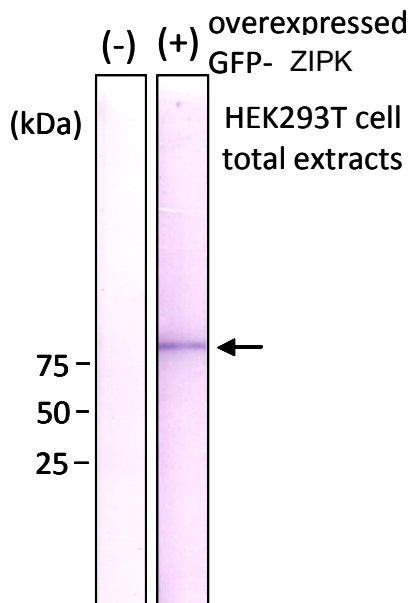


図2 1A5抗体を用いたウエスタンブロッティングによるHEK293細胞に過剰発現させたGFP-ZIPK融合タンパクの検出
(-) 過剰発現をしていないHEK293T細胞抽出液
(+) GFP-ZIPKタンパクを過剰発現させたHEK293T細胞抽出液

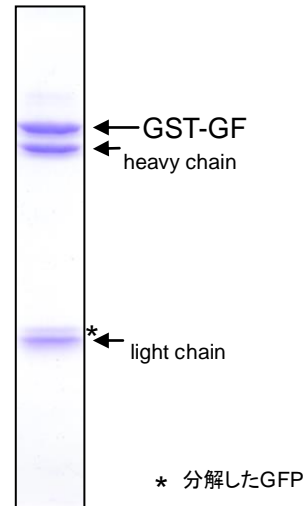


図3 1A5抗体を用いてのGST-GFP融合タンパクの免疫沈降

文献: 本抗体は以下の論文で使用された。

- 1.Okazaki K. et al. Nuclear localization signal in a cancer-related transcriptional regulator protein NAC1. [Carcinogenesis](#). 2012 Oct;33(10):1854-62. **IP**
- 2.Maekawa K. et al. Tissue-specific expression of histone H3 variants diversified after species separation. [Epigenetics Chromatin](#). 2015 Sep 17;8:35. **ChIP**

関連製品: # [60-011](#) 抗 GFP 抗体、ウサギ血清